

祖国からの慰問金に感謝する中央大会

各地から支援物資続々！

28日、東京の総聯中央会館で、東日本大震災被害同胞たちにおくられた祖国からの慰問金に感謝する大会が行われました。

福島を代表して張泰昊本部委員長が参加しました。本部委員長は被災地同胞代表として壇上に席が設けられたそうです。

討論の指名を受けた委員長は、県内での被害状況を語り、被災した同胞たちを県内の同胞たちが力を合わせて支援し、ハツキョを避難所にして同胞、日本人の区別なく援助したことを詳細に語りました。そして同胞たちみんなが祖国から送られた慰問金に感謝し、今後より一層同胞社会を固いきずなでつないでいく決意を新たにしたりしました。

大会終了後は各地の大会参加者から大きな激励を受けたそうです。

大会の詳細は朝鮮新報4月1日号に掲載されます。

震災後2週間以上が経ちましたが、全国各地から支援物資、支援金が続々と届いています。

28日には総聯京都府本部代表が支援物資を持ってハツキョを訪ねてくれました。「とにかく燃料が手に入らない。」と言う私たちの言葉に応じて何と京都から専用の運搬車に灯油1tと軽油1tを積んでもってきてくれました。(灯油は即時に浜通地域の同胞たちに届けられました)

その他にも飲料水、日用品、カセットボンベなど同胞たちの気持ちがこもった物資をハツキョバスのタイヤがつぶれるほど積んできてくれました。京都のイルくん達は荷物を下ろした後、すぐに次の被災地である宮城県に向かいました。

今週に入り千葉東葛支部、香川県本部、愛媛県本部、東京葛飾支部、ニョメン大分、北海道本部、埼玉県本部、商工連合会などからも支援物資、支援金が届けられました。

ウリ避難所情報

ウリハツキョは今回の震災で被災した人達のための避難所として震災直後から延べ約30名が避難生活をしてきました。それぞれが他県の親族や知り合いを頼って移っていき、今日30日に最後の1家族がハツキョを後にしたことで解散することになりました。避難していた人たちはみんなが県内のみならず全国のトンポから送られた支援物資とハツキョのおかげで不自由なく暮らせた、今後の生活に不安はあるが頑張っていきたいと語っていました。

平地域の方々へ

全国から届いた支援物資の一部を総聯浜通支部事務所へ運びました。飲料水、食料品、日用品などがあるので、平地域で物資が必要な方は、尹載浩平分会長(焼肉チャンゴ0246-23-7878)または本部(024-922-3554)に連絡してください。

地域の避難所へ支援物資

先週に引き続き富岡町、大熊町から避難してきている人達がいる郡山北工業高校にキムチの差し入れをしました。富岡町の行政担当者は、ここから大玉村に移った人もいるし、ビックパレットから移ってくる人もいて避難生活はまだまだ続きそうだと言いながらこのような差し入れはととてもありがたいと喜んでいました。

今後南相馬市にも届ける予定です。

この度の震災で被害を受けた方へ

震災によって住む家を失った、損壊した、通常の営業ができなくなった等の人には特別な救済措置が適用になります。その際には「り災証明書」が必要になるので必ず申請して交付を受けましょう。窓口は各市町村役場や支所です。被災状況の写真が必要になる場合があるので、写真を撮っておいてください。